



いとほしくん



コトクニ 國のませしをさる。孔子の徳よみ路といふ者あり。その思
コトバの言いごとくしてさるに。孔子も又み路と得くより。思言
耳よいふとハのまなり。たのれ。宿宿の意。虫ハ。後足大人の徳
かなが。る。思言と。ま。我大人乃耳を。釋ゆ。き。や。そ。も
く。あ。む。一。が。ぬ。の。名。ま。は。所。と。い。ふ。家。と。京。丸。の。樹。り
ま。う。さ。く。尾。法。の。名。後。を。よ。む。む。い。の。よ。く。ま。く。こ。さ。び
あ。ま。が。ぬ。さ。無。子。と。編。こ。れ。を。木。に。彫。く。そ。お。た。これ。と
得。く。よ。む。よ。我。大人。の。か。一。た。ま。う。と。は。一。ま。い。ふ。書。の。し。し
を。さ。得。く。よ。む。さ。も。と。う。それ。を。誤。れ。り。そ。と。た。ぶ。つ。た。い。

さる要言マカコトぞも書カキく入イく。菊キクきこえたるはおぼしかりてより
かのとほらぐ其ミ乃ノしひひらくまゝなる人ヒトむくひくぞこ
もまらひをむるかさむこく。そよおしつゝハエせたまりのを。
おだもそのさし人の遠トカくべきやま。そのを母オモぐむらひ
ちつく書ツキとよみたるそよもまゝでかひのくつゝはまきゆを
かいおしむる好ヨクきそむとひいほるうたをまけぞや。たのれあり
虫ムシ今イマその條クダリくよあそせり。眼メをあくし。心を正ただしくしと。
薄ウソくみよといふ。

まよそのこまよざさ乃ノ序ウイブ書アぶ乃ノ物モノをみるよ。おありて
拾ヒキい得ユてらばど書カキく。其ミ編アめる人ヒト乃ノちをかくせり。又マそれよ

よみ人ヒトまづびの傍タメをそれらなほおびをす。まよひとまら
よめハテ思オモはるに。あをほらなるまらうべなるかも。その母子コノモを編アめる
人ヒトまづ文フミ体サマをまづびがいつる仮カ名のそよをまづびかこより
其ミつゆのハオロ思オモうなり。なほ下シタあおの傍タメも。りくおげつ
へるハ又マたぐらよ。まをこららひく。あをかく。なるまらう。
このまら十トヒラ投ナの者モノよ付ツてお抱ハトハレ申申中中二符字ニフジヲ箒字ヲハシニ書ニカタカハ
中中二官字ニクワンジノ字眼ノジガンヲ官字ヲクワンジニカキマキラシタルトコロアリコレハ又マカキタカハタルハコノア
見ミユレハ其ミ罪ツミイトオモキニ似ニタリ後ノチノ論ロンヲ待マテテ見ミルヘシ
秋アキ高タカ家カ乃ノこころよとられまづどとかり。まづは母子コノモにめ
をよこハオクまびがるか。修オクりるまら。まらかこみれば。この母子コノモの
修オクり十九ニ段ダンの者モノよ店タナ先サキ乃ノおたなごころまら。まらまら。

またちげなる言をりく。の。一。た。は。と。く。さ。い。く
その人ぞよとみれ。さ。商人。乃。ま。ま。も。み。ゆ。何。よ。ま。れ
く。め。と。り。た。り。な。し。ぬ。人。も。れ。バ。林。た。り。あ。れ。よ。彼。よ。あ。と
あ。と。く。く。さ。ハ。地。割。男。さ。り。む。の。い。と。ほ。ぐ。ち。の。中
よ。れ。と。く。さ。び。男。と。り。け。ら。は。な。れ。後。考。を。り。る。さ。り
と。この書よむ人考にげせ。

六にちも集こ収兼

武の仇落まは懐恨の。と。め。よ。仇落の。ま。い。の。と。書。は
せ。終。ま。た。中。の。の。言。々。所。は。よ。く。一。れ。ハ。仇落とと
かり。異。て。通。用。を。り。合。身。の。考。息。を。取。つ。く。と。い

て。あ。れ。ぞ。の。書。乃。ゆ。く。得。る。な。り。ゆ。と。い

意。中。い。と。く。さ。り。乃。ゆ。ハ。ち。か。う。な。い。と。い。む。乃。め。こ。と。と。い
よ。は。仇落と。い。ど。懐恨。さ。の。の。或。ある。の。い。ま。奇。乃。二。言。を。加。え
と。い。あ。れ。さ。る。と。物。乃。あ。く。な。さ。う。なる。ゆ。よ。ハ。仇落と。い。さ。う。ま。て。ハ
こ。い。え。ぬ。ゆ。り。さ。う。と。い。あ。り。て。ハ。あ。く。あ。う。あ。ら。ず。ホ。ハ。解。く。その。あ
を。集。の中。よ。と。と。く。仇落の。ま。い。奇。と。ハ。ま。ぎ。ら。ぞ。中。で。よ。そ。乃
こ。い。ま。あ。乃。中。め。し。仇落く。との。ま。ま。の。せ。た。り。さ。い。本。本。解
付。た。る。物。乃。乃。の。い。れ。り。さ。う。と。い。と。さ。う。但。マ。編。集。ハ
武の。懐。恨。ゆ。い。ハ。ゆ。を。げ。る。ゆ。さ。は。い。く。又。は。が。い。さ。う。ハ。考
さ。あ。よ。ハ。ん。得。か。の。さ。人。ハ。ち。今。の。こ。い。い。あ。り。さ。う。れ。ど。仇落

なごきむゆよこそ。まのたをばくも万ぬあふをこもまき
にうむが。かいてく。くるとなる。まのたよ。いよらん。得なま。人よ
あれ。ゆ。ぼ。い。ゆ。ま。ま。ま。の。せん。あ。よ。し。う。ま。た。く。を。り
たう。ぬ。よ。ま。り。く。ぬ。が。た。く。い。ぎ。る。さ。を。あ。く。ら。せ。う。ま。り。の
な。し。じ。り。

口取表

仇情のまの俗間今の通用乃詞を編指はひ其

そのあまらふ

葛虫いしく。佐^{ミズ}割をそこ何をうらふ。正言^{マサコト}をりあ。媚^{メヒ}指^{サシ}言
ま。ま。曲^{マカユ}言^{コト}をいあ。が。あ。ま。り。ゆ。し。た。の。か。か。それら乃あ。あ。ま。り。ま。

あごひをよかむとくこそ。まは。が。ら。乃。を。一。も。ま。れ。女。ら
ゆ。み。く。正言^{マサコト}ハ。仇。情。づ。う。よ。用。な。し。く。い。し。む。も。女。が。た。ら。ひ。の。こ
に。ん。ま。し。く。ま。を。入。ぎ。の。ま。る。よ。ハ。あ。し。ぞ。

口取表

わ弁連おとせし用を云て其人とせらる。保ハ。中。流。乃

橋^{ハシ}さ。う。い。飛。火。乃。四。ま。さ。う。し。よ。み。り。る。

あ。む。い。ら。く。ま。ハ。相。う。つ。を。こ。ら。て。い。ひ。て。人。の。体。を。ま。ま。く
と。ま。あ。ま。し。い。く。人。の。体。と。い。ひ。む。は。と。い。ま。く。橋^{ハシ}さ。う。い。さ
乃。何。の。保^{タマシ}を。こ。か。れ。あ。ま。り。ま。言。を。引。ら。る。ま。ま。の。ま。ま。を
を。い。ま。ん。と。く。ま。の。た。あ。し。を。ひ。ら。る。よ。ね。が。し。ぞ。ま。づ。い。と。む。い。

守モリのことばはいとハル。守守モリモリ守守モリモリなごもよみ。其カ外ナといと
おほし。今又その外モリ乃ためしカキにモリよりくカナいカを。守守モリモリはた。金
守モリ守モリ乃たけいモリを。いモリをモリくモリも。みまモリこれモリあモリきためしモリに
よるモリなり。又モリ此モリ作モリかモリごとモリも。非モリ代モリ化モリよモリこモリにモリ凌モリ伍モリたモリとモリし
とモリり。されモリばモリいモリ。そのモリ外モリもモリなりモリよ。そモリをモリくモリ被モリよりモリあモリてモリじモリハ。
そモリでモリよモリいモリるモリまモリちモリとモリまモリなりモリとモリなりモリ。

又其モリ外モリ乃たモリがモリいモリをモリ引モリよモリうモリよモリきモリくモリまモリさモリりモリじモリ。今モリのモリ磨モリ乃
荒モリ立モリよりモリをモリ引モリいモリるモリあモリちモリなりモリ。又モリ仇モリ借モリがモリりモリ。其モリ家モリのモリいモリとモリく。
おモリのモリ外モリどモリもモリよモリうモリじモリとモリばモリ。何モリ乃モリ外モリをモリしモリすモリ。とモリをモリ。
そモリうモリよモリうモリほモリとモリめモリたモリるモリハモリ外モリをモリ引モリかモリぐモリまモリいモリるモリあモリのモリいモリまモリのモリ

道を拾うておぼくも。

みね表

いモリいモリるモリ外モリをモリ引モリよモリうモリよモリきモリくモリまモリさモリりモリじモリ。今モリのモリ磨モリ乃
荒モリ立モリよりモリをモリ引モリいモリるモリあモリちモリなりモリ。又モリ仇モリ借モリがモリりモリ。其モリ家モリのモリいモリとモリく。
おモリのモリ外モリどモリもモリよモリうモリじモリとモリばモリ。何モリ乃モリ外モリをモリしモリすモリ。とモリをモリ。
そモリうモリよモリうモリほモリとモリめモリたモリるモリハモリ外モリをモリ引モリかモリぐモリまモリいモリるモリあモリのモリいモリまモリのモリ

のいしへハ糸ハ唯糸糸のこなりりと。佛のをく入でたしひ
くより。やうねハ糸よあめと。又さるはよハ業をのこ食ひ
て。射勇の油とさけ。書あ子をさけくをぐみるどん。をハ佛
乃さのそハ人よ及ぶるなりなり。そが中よハ。たりの得くおふの
人よぬたどむをさるごとく。我大人佛落がうむ人よむうひ
て。さびりるをさくた。さびりるをさくく。ゆがみで
おぐごといあうなるもの。ささうよ書さよのみ。いしとさうぐ。
くどのハ佛落の糸とさく。後さ何のひぐとささる。さ
さふとけしハ所のこくせむさびりなり。我よハ業をさ
およ。さるハハ通にさよの書さし借る。さよむ人乃門よ

もさひく。そをえ彼よ解る同ハ。ささくもさふ乃道をたげえ
又さ中よ者あハ人い。ささよその中よ人とあれお。たさハ丸
ささくもさむに。かさるあささ。さ言の糸をさつぬ。さささく
て。おくくマもさむむ。たりのおく。後よハよさく通よ入る
人ささ。ささよかく。さ言もさかり。その外は道乃教ささ
乃人よ及べハ。かうたさよをさる。佛乃むことをのこさるこ
し。

又教書

そし。さの佛落をみるささ。さささ。靴乃ぬく。捨さうと
いさ。さ捨さささ。さささ。ささ。さ。靴をさささ。ささ

昔く古鞋は枕のこころは似たり

あむむいさ言の序は佛よりいさむ。鞋也そのはとけ
乃う人をさるよ。こび妻よ又解るぬ。其妻よのほご
とあふらん。おどろひむいさされり。きねるがぬよけよと
かえり。孔子又あふらん。一は都よ引つこのこまよ
く其のむづのよさあふらん。こころは似たり
こころは似たり。さむも又言くまふりて。其古鞋をいさふと
いとじや。秋人他落がう乃要ふよまごいされく。久しく愛
びう。今其はらうなるおさむいささる。よまのこころ
そめたり。さるるぞと。

六枚表

あむむいさ言の序は佛よりいさむ。鞋也そのはとけ
乃う人をさるよ。こび妻よ又解るぬ。其妻よのほご
とあふらん。おどろひむいさされり。きねるがぬよけよと
かえり。孔子又あふらん。一は都よ引つこのこまよ
く其のむづのよさあふらん。こころは似たり
こころは似たり。さむも又言くまふりて。其古鞋をいさふと
いとじや。秋人他落がう乃要ふよまごいされく。久しく愛
びう。今其はらうなるおさむいささる。よまのこころ
そめたり。さるるぞと。

万葉集卷十二入収表ニ

得管二毛今見牡鹿夢耳手本纏宿登見者辛苦

或本歌殘句云吾妹兒年

昔姉子年ワキモユヲといつ詞をむせくるよ。又言けりか十七言なりか。又曰ま
もこのむ言るとちのまのあつたあゆふなをさく。ちよはづくとはづかざ
マ。およむ人よウチひてもあづぶ。又曰あゆ系乃一本ふ。あぬのまを
浮りく登るまの作る。あゆらふらふりてくもあ系まのさかりサガ波を海。
定く一本のまよふみつゝむよ。まをさるゝとく通つづん。又曰ま
あの人乃トはるまをほす一。

纏糸々人イッヅガヒ句ツカヒなるを。二つの句ツカヒなるの句ツカヒをまらげくオユあは
句ツカヒ又この句ツカヒなる句ツカヒをまらげくコレ勝乃句ツカヒといふ。さてけらふ
とづか句ツカヒを。傍が句ツカヒといふあふらうらう。されどかゝること。ほのめよは
くさくまのひびきま。ひびきあふよま。ひ尾乃句ツカヒよま。侍ら。
又傍が句ツカヒとあるまも。しんじシとトトとくくしんじシま。これバ。そおハま
てのまよもま。てま。世がひとま。くくしんじシのま。万葉系あの後
句ツカヒといふこと。まよはるま。ま。あふらうらう。又あふらうといふ
記ミチカあむとツシまカケらるま。何ぞ。お大人何れよ。ま。あふらうといふ。ま。
ま。わ乃あふらう。

はるねくよみつぐ弁乃ちしめはやくぬよ。あは乃乃相を佐弼の
すひあるう。又白としいよ。なよふぶれくあさあうしに。ま
これひまうろく。お言言行原。唯自の方くをまことえたりのこは
了。又このことをいふといひあると。續日本紀卷十。正四位下長
田王從四位下栗柚王門部王從五位下野中王等爲頭以本
末唱歌云。その外例乃多さよあつて。なむの考とまこえ
たりとむ。よりく秋大人乃新説といふハ何ぞ々。實は
何月も耳もなれば。何れいもよくえはくまの。ことハたつりど。
そこを度あさるが。は道のむひあうやもむり。又。此の
序多をきせるとさうよ。其序たより今よ。入百七十年

よ。餘りつはむごりあこと。ま書り。こハ又あてい。その例よりい
り。それハ年月と。そのあていも及び。そのいりく。そまび
その外例をり。ことまらるる。實は人乃心まあ。あつた。ま
は。そのいりく。そのあてい。その外例を。そのハ。其のいりく。そのまび
あつていり。そのいりく。

あつていり。そのいりく。その外例を。そのハ。其のいりく。そのまび
まび。そのいりく。そのあてい。その外例を。そのハ。其のいりく。そのまび
又。そのいりく。そのあてい。その外例を。そのハ。其のいりく。そのまび
か。そのいりく。そのあてい。その外例を。そのハ。其のいりく。そのまび
く。そのいりく。そのあてい。その外例を。そのハ。其のいりく。そのまび

八枚裏

小松よく能煩も意あ後の一系は風いと秋風とこの
 海をみまは秋風いとこの一は品秋の風と海を向とたる
 秋風乃あつれるあきとたつらむる文よこそあれとりふ
 向きとあつら秋風とこの一は向一を乃よふあつら秋の文
 の表を海をさうし秋風よ海もさうあつらア我とりて
 一餘ハと印と服ちのあうひくおもとばらく出も海ら
 九とさあつらさうのさうの師一さきハ秋風とさうらとく
 却てこの向をさうあつら向ハけ方あつらさうくさあ

のつとさ向乃あつらあつらあつらゆなり一能煩さくさうあつて
 実よたなりらる物をと過く改かんさうく一物をまた
 るハいとまた一これの件とさうよ性急なるあつらと
 ゆれハまえるのさあつとさあつらあつらさう一ハあつら
 あつらゆいさう。は原あつらにさうさうてさうさうげなる。さうさう
 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 かんのかめさうを懲らさうさうさうさう。はまが我さう向とさうさう
 て秋風よとさう向とをさうさうさうさう。さう向とをさうさうさうさう
 さうさう乃能煩なれば我の向ハまらさうさう。秋風いとをさうさう
 かはるるの道の道ハ是乃我さうさうさう。はあ。はあ。はあ。

あむむ〜い〜く。ぞ〜八我大人乃露ヲカう〜う〜う。ひひひ〜
あ〜び〜と〜ま〜人とま〜び〜。い〜とあ〜あ〜う〜。い〜じ〜う〜とま〜ま〜は〜ま〜と
い〜とむ。えい〜い〜けぬ〜う〜う〜。う〜のえ〜を言〜と〜のま〜あ〜。い〜ひ〜う〜ある
と〜ご〜世の物モノひ〜ま〜う〜と〜う〜りむ〜。い〜とみ〜さ〜う〜あ〜り〜。と〜ま〜ご意乃
な〜が〜れた〜あ〜をま〜ま〜よ〜づ〜。ま〜ご世の物トモカラよ〜ま〜のぶ〜よ〜ま〜う〜と〜。は〜る〜ひ〜
い〜と〜く〜ま〜は〜ま〜あ〜る〜ぶ〜。ま〜ご世を秘〜へ〜。さ〜か〜今〜を〜ま〜冊〜め〜よ
と〜首と裁イサカタひ〜。と〜ま〜と〜は〜。た〜と〜ま〜い〜人〜と〜あ〜つ〜て〜。い〜ま〜の〜い〜せ
人〜を〜伺トひ〜あ〜り〜く〜む〜と〜せ〜る〜よ〜。え〜尾法なる界角サカノよ〜あ〜ひ〜く〜。ま〜る
と〜皮をば〜づ〜。よ〜ま〜^{ウケ}あ〜る〜い〜び〜よ〜ま〜は〜る〜を〜乃〜風信フクリと〜は〜へ〜く〜。ま〜は〜か〜笑
乃今カトサハは〜よ〜ゆ〜と〜く〜。兼向耐堂トモカラな〜ぶ〜う〜。ま〜あ〜き〜芳トモカラが〜信トモカラよ〜ま〜は〜る〜の〜風信

をま〜わ〜。希固又麦林トモカラが〜使トモカラる〜れ〜が〜。ま〜よ〜こ〜中〜う〜ま〜と〜なり〜ひ〜。ま〜は〜何〜ぢ〜
い〜と〜く〜ま〜ま〜ら〜う〜。同トひ〜。松海トモカラよ〜ま〜の〜び〜。赤トモカラは〜つ〜困乃トモカラゆ〜ゆ〜の〜あ〜れ〜が〜。お〜ら〜
ま〜ら〜う〜。ま〜あ〜つ〜う〜と〜ま〜ら〜。西トモカラと〜東トモカラの〜屋トモカラよ〜ら〜れ〜く〜。院トモカラは〜乃〜て〜ま〜
つ〜く〜ま〜れ〜う〜。ま〜ご世の物トモカラな〜ら〜ふ〜と〜ま〜む〜と〜ま〜ゆ〜る〜ゆ〜る〜。院トモカラ
が〜ら〜え〜を〜ま〜ゆ〜こと〜於〜ら〜る〜人トモカラ人トモカラも〜。か〜む〜う〜う〜よ〜ま〜の〜び〜。又其の時の入トモカラも〜ま〜
つ〜つ〜つ〜。い〜ひ〜の〜ま〜は〜何〜と〜く〜お〜く〜。ま〜方トモカラよ〜ま〜ま〜は〜人トモカラも〜あ〜ら〜び〜。次乃
次乃の物と〜と〜く〜。ま〜あ〜く〜ま〜は〜あ〜だ〜す〜と〜く〜ま〜ら〜び〜。よ〜く〜と〜ま〜ま〜
た〜く〜ぶ〜。何〜ぞ〜か〜ら〜る〜え〜を〜ま〜る〜ハ〜い〜ひ〜お〜ひ〜。
又い〜く〜女トモカラ背トモカラ乃トモカラ赤トモカラと〜探トモカラま〜る〜た〜く〜人トモカラと〜都〜と〜く〜。院トモカラは〜ま〜づ〜う〜と〜り〜て〜家
よ〜た〜く〜へ〜と〜ら〜ハ〜何〜ぞ〜也。探トモカラま〜る〜よ〜及トモカラび〜院トモカラは〜ま〜づ〜う〜の〜ま〜ま〜。い〜ひ〜ま〜る。

人のもとを去るハ一^トの成となすひうよのせく。吹くや。かきも
い^カまそ^カ。女^カ中^カく其た^カと^カたる象と擧^カうた^カせ^カ。さうく^カ年^カる
乃^ニは^ニ文^ニと^ニ擧^ニる^ニん^ニよ。何ぞ又い^ニ奥^ニマ^ニと^ニす^ニむ。そ^ニよう^ニは^ニふ^ニり^ニや
あ^ニむ^ニる^ニぞ。だ^ニの^ニか^ニま^ニど^ニう。又^ニは^ニ條^ニ乃^ニと^ニす^ニむ。い^ニづ^ニれ^ニの^ニな^ニよう^ニ小^ニ豆^ニ條
と^ニう^ニい^ニむ^ニむ^ニと^ニり^ニの^ニち^ニよ^ニま^ニい^ニす^ニぐ^ニ。ま^ニた^ニめ^ニく^ニ仇^ニ落^ニぐ^ニの^ニ條^ニと
だ^ニり^ニむ^ニ。

十枚裏

仇落^ニう^ニる^ニハ^ニ處^ニと^ニ必^ニま^ニく^ニ。一^ニ方^ニと^ニ必^ニ林^ニと^ニ一^ニ時^ニ雨
と^ニも^ニう^ニら^ニひ^ニく^ニ。い^ニは^ニけ^ニを^ニ擧^ニる^ニく^ニ。い^ニは^ニく^ニり^ニ難
と^ニ仇^ニ落^ニう^ニけ^ニて^ニ答^ニた^ニる^ニい^ニう^ニま^ニす^ニや

あ^ニむ^ニい^ニく^ニ。い^ニは^ニ條^ニ乃^ニと^ニす^ニむ^ニと^ニす^ニむ^ニ。ま^ニま^ニか^ニも^ニた^ニら^ニう^ニな^ニら
か^ニも^ニ月^ニ々^ニ何^ニと^ニえ^ニく^ニい^ニま^ニす^ニむ^ニは^ニど^ニい^ニど。海^ニが^ニ月^ニの^ニえ^ニさ^ニハ^ニね^ニは^ニえ
ぶ^ニら^ニる。だ^ニの^ニれ^ニが^ニ事^ニと^ニり^ニく^ニ万^ニ葉^ニ第^ニ十^ニ春^ニ雜^ニ歌^ニと^ニい^ニま^ニり^ニさ^ニげ^ニ。難^ニの
字^ニハ^ニ何^ニと^ニか^ニん^ニと^ニ。ま^ニと^ニり^ニく^ニ其^ニ月^ニの^ニえ^ニさ^ニと^ニい^ニふ^ニ。さ^ニハ^ニさ^ニう^ニ。何^ニ
乃^ニ中^ニの^ニ。い^ニま^ニ書^ニよ^ニう^ニて^ニよ^ニあ^ニる^ニか^ニ。ま^ニの^ニ洞^ニよ^ニひ^ニら^ニく^ニハ^ニえ^ニ難^ニふ^ニこ^ニと
い^ニう^ニと^ニま^ニう^ニく。其^ニ條^ニの^ニト^ニは^ニ注^ニを^ニと^ニん^ニ。い^ニま^ニが^ニう^ニよ^ニと^ニゆ^ニら^ニり。
其^ニら^ニい^ニま^ニが^ニう^ニ乃^ニむ^ニハ^ニ。い^ニま^ニよ^ニと^ニる^ニ言^ニの^ニせ^ニら^ニ。或^ニハ^ニあ^ニよ^ニハ^ニり
を^ニい^ニま^ニく^ニよ^ニむ^ニら^ニう^ニと^ニく。な^ニれ^ニは^ニぞ^ニあ^ニい^ニく^ニお^ニつ^ニる^ニ乃^ニお^ニを^ニか
た^ニま^ニり。凡^ニ難^ニの^ニ詞^ニハ^ニ。難^ニよ^ニり^ニう^ニ。書^ニよ^ニり^ニて。難^ニよ^ニあ^ニる^ニ物^ニな
は^ニ。春^ニも^ニあ^ニら^ニも^ニ詞^ニと^ニか^ニさ^ニび。依^ニく^ニ難^ニの^ニ一^ニ字^ニを^ニと^ニん^ニ。

ごうくはく。その申さるに、佐落がう乃でごうく。ゆがみりらうたを
たりた。

十四枚表

け書佐落より人よ向いてうと、佐落よさるれごまき
わふま教よあひらひらひら一返りあつひ其家よりわ
へ一佐落乃おもよさるひらひら一返りあつひ人
曉さん乃お測るひらひら耳近く通るやうよ佐落
落の端ともまくしとたにらひらひらひらひらひら
とささふ今うはひらひらひらひらひらひらひらひら
侍去ハ何のゐ乃事ありやを偏よ方茶付杖のむは

と披一人の耳るれりやとつねごまき一のまうた
人まよとまよ留れんとたりらひらひらひらひらひら
るひらひらひらひらひらひらひらひらひらひらひら

甚忠いらく。佐落乃おもよさるひらひらひらひらひら
へあつハむ方ま教よりひらひらひらひらひらひらひら
らとさあひらひらひらひらひらひらひらひらひらひら
をひらひらひらひらひらひらひらひらひらひらひらひら
ハ遠ひらひらひらひらひらひらひらひらひらひらひら
とひらひらひらひらひらひらひらひらひらひらひらひら
もひらひらひらひらひらひらひらひらひらひらひらひら

かいついぬいしとさるこし。なごめぬいよハこそ人さうし。がな
くいぬいしとさるこし。又からぬハおのこして。昔
へわくハおのまきやうとさるよめどいらいよまうし。はうまき何
ぞ沈浮がうりつこしとさるこし。お入りぞかきぬよと
まじ。

又昔傳^{イサコト}よ言^{コト}をさうし。今すつこしつこしハ何ぞか。海
よハあげつらふとつお訓^{カケ}もつらふと。傳^{カケ}よさうしとさるこし。昔
もさるこし。さうしよいさのこしたくハさるハ。傳^{カケ}がこさるさのさ
の中十たぬ表。さうしよいさのりしとさるこし。さハいの役さ
りけいの役さるこし。それハさうたさうまうしとさるこし。ハいさ。割

と書^{カキ}こしとさるこし。つらふとさるこし。又昔傳^{イサコト}よ言^{コト}
それぞ。さうしよいさのりしとさるこし。さハいの役さ
りけいの役さるこし。それハさうたさうまうしとさるこし。ハいさ。割
とさるこし。つらふとさるこし。又昔傳^{イサコト}よ言^{コト}
それぞ。さうしよいさのりしとさるこし。さハいの役さ
りけいの役さるこし。それハさうたさうまうしとさるこし。ハいさ。割
とさるこし。つらふとさるこし。又昔傳^{イサコト}よ言^{コト}
それぞ。さうしよいさのりしとさるこし。さハいの役さ
りけいの役さるこし。それハさうたさうまうしとさるこし。ハいさ。割
とさるこし。つらふとさるこし。又昔傳^{イサコト}よ言^{コト}
それぞ。さうしよいさのりしとさるこし。さハいの役さ
りけいの役さるこし。それハさうたさうまうしとさるこし。ハいさ。割

昔傳^{イサコト}又同^{カケ}がさあつ。ハ一傳^{カケ}乃中^{カケ}よ。かきぬいしとさるこし。ハいさ。割

この世は万葉時代といふほどに、づれのに原より書かせたる。

十人ぬ表

上代は物名実一物名不らりきりりてはまきくぬは事一
よりの貴あれは古きよりの昔と慕あゆむたき
よふれしき

あふむいさく。世はとくひくかふる河ハ嘔きん。とまきり
て言ハ休むべし

日ぬ

又人の才智よ才智と侍くかき一深り乃改め是れぬ
と補ひく昔は信じたるもの多し

あふむいさく。かき一深りとハ川の代乃解し。とら。や文きよはるえ
るがどくまきこらむび。押くむいさく多し。奈言の比よりな乃
あふむいさくははくさるる。今このはとぬつて。古きもあふむ
入る人なり。信の深りとかいぬめたる。とら。や。を侍る。

十人ぬ表

これハ昔のゆを智ハす。今用ひくは。今用ひくは。今用ひくは。
わ。一。た。く。ハ。岐。夜。若。根。路。乃。今。往。来。の。易。き。を。於。く。
か。ら。こ。こ。を。さ。さ。治。せ。れ。と。今。ハ。前。森。上。寒。う。た。申。を。昔
み。く。焚。き。の。め。一。道。を。昔。乃。正。治。せ。れ。た。今。往。く。人。ハ。於
る。と。い。ふ。

あま水とこのも。きりハよく翔^{カケ}るゆゑ。さよふ枝をりてめく
宿^{ヤシ}る。そそののん乃ゆくはなり。まをりてく。枝た人にまがれ
るよふらび。直^{オホ}よよつけとハ。えせくのこまをりなり。

十人投妻

折わきののりハそくの。帝は極度つうておろの
風体細い定^ミと右の風は。勝るりりよまをり
それより連分とつうお始り又佐治ハまておの中よ
て怒れり。そいこ人をとりて道を。妻まらふハあは
れおハお弁とつう連分ハまがとここれくまりさうく
昔よよ承^{ウケ}ハあはれ佐治お新^{ニギハヤヒ}は。守^{モリ}たは。怒^{イカリ}ひ之。彼^カは

こそとぬれを。そとぬくは。彼をまら。

あむむいこ。女ハ佐治^{ササキ}づうの家の。そいあを。そが佐治のあ
このまをりさう。はあだもまはまはま。おのりさつひあむ。お
弁の風体細い定^ミと右の風は。勝^{カチ}れりなむ。いあま。まあま
おののあつとつ。さハ女が。いあむ。いあむ。いあむ。いあむ。いあむ。
弁よくた。いこ。いあむ。いあむ。いあむ。いあむ。いあむ。いあむ。
いづれの何とつ。いこ。いあむ。いあむ。いあむ。いあむ。いあむ。いあむ。
おんるま。いあむ。いあむ。いあむ。いあむ。いあむ。いあむ。いあむ。
まむくと。奈^ナ良^ラ未^ミハ。光^{ミツ}仁^ニ天皇。女は上^{ウヘ}とハ。いあむ。いあむ。いあむ。いあむ。いあむ。
延^{ノボ}喜^キ乃^ノ序^シ代^{ダイ}。いあむ。いあむ。いあむ。いあむ。いあむ。いあむ。いあむ。いあむ。
醍^チ醐^醐天皇。文^{フミ}のま。いあむ。いあむ。いあむ。いあむ。いあむ。いあむ。いあむ。

つらふなればびとよかざれらまゝにたぐひあはれにまゝに
ひびくして。よふへの鳥のさうだ。さうだ。さうだ。さうだ。さうだ。
さうだ。さうだ。さうだ。さうだ。さうだ。さうだ。さうだ。さうだ。
よそこ馬よいれく。目のまゝ乃無さのまゝあやあはだ。たぐ
しつゆいよへのみち。赤のまゝはえぬく。人のまゝは
解じがらあはるう。い。

こわうの文序言をいひしやうけにたはりれ。我大人みづうを
りくしひはるるにわらざるゆゑ。其れが古く赤の序言をほだえ。
そののぶ葉乃序言をとえよ。そもいふ人のまゝはえぬかのみひ。
まゝにかいたおとさ道のまゝ。依傍ハ新ハ新きたる。びとなど

いひ文く昔よふるまひあはれびなどのまゝ。我と我思とつひ
あつそ。松の場乃罪人よになら。又まゝとあはれ彼とまゝとま。
いひまゝとくまゝとあはれ。まゝとあはれ。まゝとあはれ。まゝとあはれ。
まげく。まゝとあはれ。まゝとあはれ。まゝとあはれ。まゝとあはれ。
いひまゝとあはれ。まゝとあはれ。まゝとあはれ。まゝとあはれ。

十六の表

万葉乃古傳ハ叙くまゝとあはれ。まゝとあはれ。まゝとあはれ。まゝとあはれ。
めむい。今もいれはいとあはれ。まゝとあはれ。まゝとあはれ。まゝとあはれ。
書乃言とあはれ。万葉乃古傳ハ叙くまゝとあはれ。まゝとあはれ。まゝとあはれ。
うにたそら。まゝとあはれ。

と渡したるものよりて。せはよみのまよたにむぞと渡したる
たじぞ。休たたひとよびたりとよりたりとて。やううの及^{カレ}て
りく。さうと渡したるがきりさうのれ。又をたつ人とおぼむけるさ
らじ。たむけりるよはるるやうなる。さうなるもたひらるる。さ
吾人の例にたると。びのあづたならいといふれしなり。

十七枚表

之をく云杖尾ハ杖尾よ乃てよはのともいひかたう
のゆてあれはさうのきまの物はたつて意口乃ユエー
くゆいづりるやい

やういづく。又まよはる^{オキ}むむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむ。

きまはさしとがよぬる。言^{コトバ}よんをそのはるる。さう乃杖尾もむ
ぬりも乃考ハ志ぬ。さゆあつたにひるむ。さうも同じとてよ
へたるなり。かふ考ハさう。さあひのさあはたはとよげ。えき
ぬりよ後あ〜とてさう。彼休塔さうなる。さうなる。暖ま
券^セもとらとつきたり。又棋^ユさう。さうなる。たれれ言^{イハ}せ
い〜とやう。其ぬま考ハさうのあつた。いさとるれ。考ハ
たりの序^ウたひりれど。又さうもなる。其あつとさうなる。さ
い。さうのさうも考ハさう。さハ其あつとさうなる。さ
さハ其あつとさう。さうなる。さうなる。さうなる。さうなる。
さうなる。

あつむいといふ。其跡乃次よかいつけたる。さうする人の入にさくく
かとかるういといふよう。は後ともまらういひのちうつまづくい。
文びよみびれくよみろくが。まはわしをかすとも解新(トク)。
とも赤の信(ツキコト)よかむとなりぶ。あつはあつ乃どくかりつげく。
まなひのまづく。かいはさういづく書(マカ)びく。あま(ホリ)彫く
てんせよといふ。

十八ぬき

かめいハナアノミシシヤシヤアアアアアアアアアアアアアアア
その作てめつる。さういふ。さういふ。さういふ。

書出回がめきいとはるハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ
てくらくーたらるよ。うみづけくこれば。後足うごこまなはいつて
かふむ。たのれがかるれまのがうたごく。人のあまのくといひた
がさう。うー後足る。さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。
さういふ。

又回悪人たにどろろふいこいれれど。悪人ハ何をなしたどろろい。
彼世がたにどろろふいこいれれど。又何のいんとくもあふ。後足のる
たらしはハははは。悪人ハ華音(ニハシ)のいれ。又まらなるなづかといふ
さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。
後(クダ)さういふ。後大人ハ画をさうろが業(ナリト)さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。
ひくまゆくたのり。又道を人のわよをを流く。固く人まて

幣と成りたる。白鳥も三國十その朝にまゝあつ。その何のりり一
こいぞ。メ汝とて伊と及べ。其も代入金とてあつ。これハ
道とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。
よじりる。

十八枚表

仇勝の事金舟よハ世にせり。目以もあつ。えとれり
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。

甚虫回。け一隊のちぞよよ。そのちり人乃らのほご。あつ。あつ。
ほごもあつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。

虫とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。
又回。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。
か。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。
は。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。
な。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。
い。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。
引。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。
ハ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。
ハ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。
ハ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。とていへ。

十九枚表

け一級乃難同ハ只むぢき欽もあつて一とていふは
とていふは其家ハちうあつて存創タラシのよはて
らるゝも其上の佐治郎の文音なる早かへ
一とていふは佐治の「」よまて一とていふは
ハ近ハていへば速あつて

言中いふは。あまはむいふていふは。其はむいふて
あつて。其はむいふていふは。其はむいふていふは。
とていふは。其はむいふていふは。其はむいふていふは。
そいふていふは。其はむいふていふは。其はむいふていふは。
はらう。其はむいふていふは。其はむいふていふは。

ういふは。其はむいふていふは。其はむいふていふは。
さくは。其はむいふていふは。其はむいふていふは。
たごいふは。其はむいふていふは。其はむいふていふは。
もまむいふていふは。其はむいふていふは。其はむいふていふは。
も又其國風信ハあつていふは。其はむいふていふは。
もあつていふは。其はむいふていふは。其はむいふていふは。
とハあつていふは。其はむいふていふは。其はむいふていふは。
又其上の佐治郎乃文音とかけらハ。其はむいふていふは。
あつていふは。其はむいふていふは。其はむいふていふは。
あつていふは。其はむいふていふは。其はむいふていふは。

かの^{ワカカ}は^{フナ}舟を^カ控^カ控^カくあり。あま^カりよ^カ御^カ一^カく^カ下^カさ^カめ^カめ^カし
こ^カま^カな^カ舟^カ乃^カま^カち^カう^カひ^カの^カぞ^カし^カ。よ^カり^カて^カま^カな^カ書^カあ^カげ^カぞ^カ。せ
め^カく^カハ^カ船^カと^カい^カひ^カて^カハ^カさ^カら^カう^カ。又^カこ^カま^カな^カ舟^カ十^カハ^カ枚^カの^カま^カよ^カ。舟^カハ
其^カこ^カま^カな^カ舟^カハ^カあ^カら^カね^カど^カ。回^カめ^カ入^カめ^カの^カよ^カら^カう^カく^カ只^カた^カら^カあ^カら^カと^カさ^カく
こ^カま^カら^カう^カと^カい^カふ^カ。そ^カい^カと^カも^カし^カ其^カち^カの^カあ^カげ^カら^カう^カあ^カま^カだ^カ。舟^カが^カら^カう^カ
る^カ文^カま^カの^カい^カふ^カ。就^カは^カら^カう^カぞ^カ。一^カか^カら^カあ^カら^カく^カい^カら^カう^カた^カら^カう^カ
こ^カま^カら^カう^カぞ^カあ^カら^カう^カ。そ^カも^カ文^カの^カい^カら^カあ^カら^カう^カぞ^カい^カふ^カ。信^カも^カも^カこ^カら^カう^カ
小^カ豆^カ餅^カあ^カら^カの^カま^カま^カよ^カと^カた^カし^カ。常^カれ^カは^カ信^カ島^カま^カの^カよ^カち^カな^カま^カ。と
あ^カれ^カば^カう^カく^カこ^カま^カら^カう^カち^カぞ^カし^カ。又^カ信^カ言^カの^カ文^カま^カの^カに^カま^カな^カま^カり^カ。
そ^カれ^カぞ^カ実^カの^カい^カら^カれ^カ。信^カ島^カま^カの^カい^カら^カう^カま^カら^カう^カみ^カら^カう^カ。た^カと^カく^カ物^カは^カ

も^カあ^カれ^カ要^カ活^カ中^カも^カあ^カれ^カ。物^カに^カ書^カつ^カれ^カハ^カ別^カ文^カら^カう^カ。た^カと^カく^カま^カな^カま^カり^カ
ハ^カ安^カ麻^カ呂^カ乃^カ文^カら^カれ^カども^カ。禪^カ田^カ阿^カ禰^カが^カ物^カ活^カと^カう^カつ^カせ^カま^カと^カな^カま^カり^カ。
海^カ活^カも^カ其^カ田^カの^カ言^カ言^カる^カと^カ。注^カと^カる^カと^カハ^カ即^カ文^カ之^カ。一^カ切^カの^カ信^カ文^カま^カら^カ
さ^カの^カど^カく^カ。阿^カ難^カ乃^カ物^カ活^カと^カ信^カ文^カハ^カあ^カら^カう^カと^カ形^カん^カ。凡^カ文^カの^カ例^カも^カら^カ
か^カく^カの^カど^カく^カ。さ^カら^カハ^カこ^カま^カな^カ舟^カハ^カい^カら^カま^カれ^カ。就^カハ^カあ^カら^カう^カま^カら^カう^カの^カ
う^カれ^カ。文^カが^カい^カら^カう^カこ^カま^カら^カう^カと^カあ^カら^カう^カれ^カ。其^カの^カハ^カあ^カら^カう^カく^カた^カく^カ。其^カ文^カま^カ
乃^カあ^カら^カう^カこ^カま^カら^カう^カ。就^カハ^カ乃^カ信^カ海^カ活^カと^カあ^カら^カう^カハ^カあ^カら^カう^カ。物^カは^カい^カら^カう^カ
か^カこ^カま^カら^カう^カ。物^カ活^カ言^カ言^カま^カら^カう^カ。信^カ島^カま^カの^カい^カら^カう^カと^カな^カ
る^カと^カい^カふ^カと^カい^カふ^カ。

いさげ字、終

明和八辛卯九月

吉野屋七兵衛

梅村 市兵衛

菊屋 安兵衛

梅村 宗五郎

この書 田中明氏より惠贈さる。綾足の片歌説を難じた
日この間ま草とを再び難じたりも。荒虫の名で出した水と、その
實は綾足自らの著と思われ。板下は日古今物語の水と
に類似するよ様に思われる。昭和六年十月十四日 雲英誌。

